学校心理士会神奈川支部ニュースレター

第 34 号

2024 年 6 月 23 日発行
発行責任者　芳川玲子
〒231－0021
横浜市中区日本大通 11 番地
横浜情報文化センター5 階
星槎大学大学院横浜キャンパス
「芳川研究室」

巻頭言

「積小為大と剣は心なり」そして「今こそ大切にしたい共育」

私は小田原生まれ小田原育ちの兼業農家で現在は、米と梨を作っています。また、私は小学校３年から剣道を始めました。今でも剣道を続けています。

意外と知られていないのですが、実は・・・小田原は、薪を背負って歩きながら本を読んでいる像のモデルになっている二宮金次郎の生誕地です。金次郎は通称で、正しくは二宮尊徳といい、江戸時代後期に報徳思想を唱えた農政家・思想家です。彼は私利私欲に走るのではなく社会に貢献すれば、いずれ自らに還元されるという「報徳思想」を説いた人物であり、数多くの名言を残しています。その中の一つをここで紹介します。

それは**「積小為大」**という言葉で、「大きな事を成し遂げたいと思うなら、小さな事を怠らず勤めるのがよい。小が積もって大となるからだ。およそ小人の常として、大きなことを望んで小さなことを怠り、できにくい事に気をもんで、できやすい事を勤めない。それ故ついに大きなことを成し遂げられない。」という意味があります。

この「積小為大」の言葉で、いつも思い出すのはイチロー選手の**「小さなことを多く重ねることが、とんでもないところに行くただ一つの道」**という名言です。この言葉は、2004 年 10 月､「大リーグシーズン最多安打記録」(258 本目)を達成した時のインタビューで生まれました。

一方、全日本剣道連盟は剣道の理念として､**「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である」**と規定しています。この剣道の理念は、教育基本法の第１条に明記されている「教育は、人格の完成を目指し」という教育の目的と相通じるものがあります。つまり剣道の目的は、試合で勝つことではなく、稽古の中で心身を鍛練することによって、頑強な身体、健やかな正しい心、崇高な人格などを養うことです。

勝海舟の剣術の師であった島田虎之助は**「剣は心なり　心正しからざれば　剣また正しからず　剣を学ばんと欲すれば　まず心より学ぶべし」**という言葉で剣道の本質を的確に表現しています。

石にかじりついても教師になりたい。その夢が現実となり、しかも幸いにも剣道部の顧問として生徒とともに日々汗を流すことができました。今振り返ってみると生徒に「教える」ことより生徒から「教わる」ことの方が実に多かったと痛感しています。生徒がいなければ、今日まで剣道を続けてこられなかったかもしれません。

平成４年に初めて出場した全国中学校剣道大会の閉会式後に思いもしなかった光景を目にしました。なんと男子団体戦で全国制覇をした選手たちが会場の隅に優勝旗等をきれいに並べた後、持参した清掃用具で福井県立武道館のすべてのトイレの掃除を行ったのでした。

帰校後このことを部員たちに伝えると、次の日から学校内のトイレ掃除そして対外試合終了後の会場のトイレ掃除が始まりました。この生徒たちの自主的な取り組みを契機に私自身が大きく変わったと思います。それは、前述の「剣道の理念」を稽古の時だけ意識するのではなく、竹刀を持たない日常の生活においても、常に意識することを心掛けるようになりました。

私は、教育の原点は目の前の教師や保護者そして大人たちが、仲間たちと助け合い連携しながら日々の生活を楽しんでいること、そして自分の仕事に誇りをもって全力で取り組んでいる姿を子どもたちに見せることだと考えています。

昔と違って、今は肩書だけでは通用しない時代であると感じています。それは「学校心理士」という資格も同じであり、「学校心理士」を取得したことがゴールではなく、「学校心理士」を取得したことはスタートなのです。「学校心理士」という資格に決してあぐらをかくことなく、自主的に研修会に参加し、書籍を読み、仲間との交流を通じて研鑽を積み重ねていくことが大切であり、この小さな積み重ねが多様な困難を抱え心理的な援助を必要とする子どもや保護者そして学校関係者等への効果的な支援につながると確信しています。

まずは自分自身が「学校心理士」の肩書に恥じぬよう、自らの心をみがき続けることが大切であり、みなさまとの交流を通じて共に育ち共に育む「共育」の達成をめざしていきたいと思っています。・・・「おれが　おれがの　がではなく　おかげ　おかげの　げでくらせ」

（神奈川支部役員　和田智司）

第63回研修会報告

日時　2023 年 10 月 22 日（日）
場所　ユニコムプラザさがみはら
（Zoom による同時配信実施）

「発達支持的生徒指導の視点に立った授業づくり
～子どもの社会的スキル横浜プログラムがめざすもの～」

講師：帝京大学大学院客員准教授 蒲地 啓子先生

今回の研修会では、第 62 回研修会でも講師の八並光俊先生からご紹介のあった横浜市の「子どもの社会的スキル横浜プログラム」について、本支部役員でもある蒲地啓子先生からご講演いただきました。当日は横浜市児童指導教育研究会の土井純先生（横浜市教委）、藤井周子先生（榎が丘小）、信時加奈先生（瀬谷第二小）にご協力いただき、模擬授業も実施いただきました。楽しいアイスブレーキングや丁寧な確認によって会場には自然な笑顔があふれ、子どもの気持ちを実感できるひとときとなりました。

１．アイスブレーキング「自己紹介リレー」

２．「横浜プログラム」について

・平成 18 年、全国的な小学生の暴力行為の増加やいじめ・自殺等が大きく報道された。平成 19 年、だれもが・安心して・豊かに学ぶことのできる学校づくりのため、横浜市教育委員会が現場の教員の実践を集めて「横浜プログラム」を作成した。

・基本概念…乳幼児期に積み上げるべき「被受容体験」「がまん体験」「群れ合い体験」の不足を、学校教育の中で補完する。

・「横浜プログラム」は、指導プログラムとアセスメントが一体となっている。

・Y-P アセスメントは、教師対象の「学級風土チェックシート」と子ども対象の「学校生活についてのアンケート」があり、その結果を検討して指導プログラムを選択する。

・指導プログラムの基本的な進め方…①アイスブレーキング②個人での作業・思考③グループ内での共有化④集団での意思決定⑤ふり返り。①の後に「ねらい」「流れ」「ルール」を明確化する。ルールとして「パス OK」「暴力 NO」「持ち出し禁止」を徹底し、子どもの安全・安心を保障する。→「欠点も見方を変えればよいところ～リフレーミング～」を実施。

・授業の中では、オープンカリキュラムとヒドゥンカリキュラムが並行して行われる。オープンカリキュラムは教育課程・教科領域の内容。ヒドゥンカリキュラムは授業や生活の中で子どもが身に付けるべき事柄。教科の指導と生徒指導は別物ではない。
・「横浜プログラム」は、プロアクティブ、ガイダンスプログラム、人権教育。

３．模擬授業　第６学年・算数「三ツ星ゲームランドで遊ぼう」
～並べ方と組み合わせ方「順序良く整理して調べよう」（東京書籍）～

・アイスブレーキング「後出しジャンケン」
・４色のシールを１枚ずつ使って違う種類のカードを作る。（個人作業）
・全員のカードを集めて、何種類あるか分かるように並べる。（グループ
・並べ方の工夫をワールドカフェで他のグループに伝える。
・全体共有（まとめ）
・振り返り

横浜市教育委員会HP➡　　**横浜市児童指導教育研究会・動画➡**

第64回研修会報告

日時　2024 年２月 19 日（日）
場所　ウィリング横浜
（Zoom による同時配信実施）

「SEL（Social ＆ Emotional Learning）について」
～不登校・学級不適応を中心に～

講師：法政大学文学部 教授 渡辺 弥生先生

改訂された「生徒指導提要」（2022）に、社会性の発達を支援するプログラムとしてソーシャル・エモーショナル・ラーニングが記載された。今、何故ソーシャル・エモーショナル・ラーニング（以下 SEL と記載）が大切かというと、子どもたちが生きる将来は、VUCA の時代と言われ、予測困難で複雑で多様性のある社会である。このような社会を生きる子どもたちに必要なスキルについて、OECD は Education2030 においてウエルビーイングというゴールを目指すためのラーニング・コンパス（2030 年までに達成されるべき教育の目標や方針）として、３つの変革をもたらすコンピテンシー（①新たな価値を創造する力②対立やジレンマに対処する力③責任ある行動をとる力）を挙げている。

しかし、より良く生きていくためには、目標を設定し、努力して、認められてという「認知的なプロセス」の繰り返しだけでは、バーンアウトし無気力になってしまう可能性がある。

そこで、感謝や自尊心や思いやりを大切にした「非認知的なプロセス」が大切だと言われるようになった。さらに、エモーショナルサクセスの著者 David DeSteno は、非認知的プロセスとして、①感謝の気持ち②自尊心・自分をいたわること③思いやりの気持ちの３つを上げ、この３つの感情を持っている人が成功すると言っている。

このような背景があって欧米では、以前から SEL が、盛んに取り組まれるようになった。SEL とは、①自己理解、②社会や他者の理解、③対人関係スキル、④責任ある意思決定、⑤セルフマネージメントという５つのコンピテンシーを大切にした、単なるプログラムではなく、大きな教育のフレームワークである。

Durlak & Mohony & Boyle(2022)による SEL プログラムを実施した大規模な調査では、社会的情動スキル、向社会的行動、学業達成度が向上し、問題行動や情緒的な問題が減少し、James Joseph Heckman の調査では、就学前に非認知的能力のスキルを育てることが、30 歳になった時のＩＱや大学進学率の高さや就職にも影響するというエビデンスが示された。

また、現在の子どもたちを取り巻く環境も変化し、異年齢集団のごっこ遊びや家族の団らんの機会が少なくなり、母親がスマホ片手に育児をする姿も増えている。そのようなコミュニケーションが少ない環境の中で、子どもたちは、非認知能力や社会的情動スキルや感情リテラシーを体験的に学ぶ機会が減っている。それによって、子どもたちの相手の表情や声色を読む力が弱まっていることが懸念される。

コミュニケーション能力とは、言葉だけではなく、表情や動作や声色などの非言語的要素が重要であり、話す力が重要視されがちだが、聞く力や応答する力も大切である。子どもたちは、応答のある言語生活の中で、感情の言葉を豊かに聞かせ、感情語彙を増やすことが大切である。また、感情を理解するには、表情だけではなく、動作や声のトーンも併せて読み取ることも大切である。

具体的な SEL として、①感情を見える化 ②感情のジェットコースター ③感情の氷山などのプログラムを紹介した。

さらに、ソーシャルスキル・トレーニングの中にエモーショナルな部分も組み込んでいくことで、SEL のプログラムになる。基本は、子どもの性格のせいにせず、感情を理解するスキルが足りないと捉え、そのスキルを育てることを目指すということである。

そして、SEL もソーシャルスキル・トレーニングの５つの教育技法（①インストラクション②モデリング③リハーサル・ロールプレイ④フィードバック）を基に実施している。

最後に、渡辺先生が SEL の普及を図るために監修されたＮＨＫ学園高等学校の高校生向けの「コミュニケーションスキル」を育てる映像教材や日本文化教育推進機構のみらいグロース（社会性・感情力を伸ばすための教材）から SEL の動画を視聴した。（みらいグロースで検索すると渡辺先生の研修の動画が視聴できる。）さらに、e-learning において無料で視聴できる子供用と教師用の SEL の教材を公開予定との話も伺った。

2024 年度の主なる予定

▸**第 65 回研修会**　2024 年６月 23 日（日）ユニコムプラザさがみはら
　講　演：「子どもへの事実の調査：司法面接の方法を参考に」
　講　師：仲　真紀子先生（国立研究開発法人　理化学研究所理事）

▸**第 66 回研修会**　2024 年 10 月 13 日（日）

▸**第 67 回研修会**　2025 年２月 23 日（日）

※研修会の講演内容や講師、開催方法等については、決定次第、神奈川支部 HP に掲載します。

◆2024 年度 学校心理士会全国大会　2024 年 10 月 27 日より オンラインにて開催

［編集後記］　前年度の反省・課題を踏まえ、研修会を対面のみでの実施とする等、本年度も試行錯誤しながら神奈川支部の活動が充実するよう努めてまいります。今後とも、会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。　reiko_yoshikawa@seisa.ac.jp（編集部）